

日本語（論文作成A）

田中 恵子（関西学院大学日本語教育センター）

1. 到達目標

学術的文章でよく使われる文型や表現、文章の展開の仕方を学び、日本語で論文を書く基本的な力をつけることを春学期の目標とした。

2. 授業内容

論文らしい表現とはどういうものかを確認することから始め、論理的で明晰な文章にするためにはどんな点に気をつければいいのかを、練習問題を解きながら考えさせた。次に、二通ほか（2009）¹石黒（2012）²等を参考にして、論文の構成、アウトラインの作成について学び、アカデミックジャパニーズ研究会（2002）³をもとに、序論、本論、結論の基本的な書き方を学習した。特に引用の仕方に関しては剽窃にならないよう、多くの例を挙げて注意させるようにした。

ほぼ毎回、学習した内容にかかわる課題を与え定着を図るとともに、クイズも3回行った。また、受講生の専門分野に近い内容の論文を与え、構成がどうなっているかを考えさせ、序論と結論の照応のさまについても確認させた。

3. 成果と今後の課題

13名の受講生は文系ばかりだったとはいえ、専門は様々であり、日本語力にもばらつきがあった。卒論すら書いていないという受講生から博士課程在籍者までいたため、授業内容を絞り込むことは難しかったが、論文作成の基本は身に付けられたのではないかと考える。全員提示した課題には熱心に取り組み、良い論文を書きたいという意欲が感じられた。

この授業はかなり形式的な部分に重点を置いたものになったため、説得力のある内容にするにはどうすればいいかということまで扱うことができなかつた。また、講義形式の時間が多く、受講生同士がピア活動によって学んでいくといったこともできなかつた。今後は実際にレポートや論文を書き、受講生が意見を出し合ってより良い内容にするような活動を取り入れていきたい。

¹二通信子他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会

² 石黒圭（2012）『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

³ アカデミックジャパニーズ研究会（2002）『大学・大学院 留学生の日本語 4 論文作成編』アルク